

2010年度名古屋大学学生論文コンテスト

優秀賞受賞

同学年内において誕生月の差が子供に与える影響

経済学部1年 田中 駿

はじめに

現在の学校制度では、子供を4月～3月の一年単位で区切ったものを一学年として扱っている。同学年内において子供は皆同じ教育を受け、成長する。しかし、学年内において生まれてから最大で一年もの成長差があるのも事実である。子供は成長期には数ヶ月で著しく成長することもあるが、はたしてこの生まれた月日の差は子供に何も影響を与えないのだろうか。

そこで今回は同学年内における子供の誕生日に着目し、誕生日の差が子供に何か影響を与えているのか調べていく。特に早生まれの子供は様々な面で不利益を被っているのではないかと考える。ここでは早生まれを1～3月生まれと定義し、4～6月生まれと比較する。

本文では、プロのスポーツ選手の誕生日や先行研究を調べることで体力・学力の両面から誕生日の差が子供に与える影響を考察し、早生まれの子供は不利益を被るのかについて明らかにする。そして現在の年単位で区切る学校制度は正しいのかについても考えたい。

1. 体力の面での影響

1.1. スポーツ選手にみる影響

実際に早生まれと4～6月生まれではどのような違いが生まれてくるのか。そこで競技人口が多く影響が分かりやすいであろう野球とサッカーの2種目に注目して、それぞれのプロ選手の誕生日を調べてみた。

図 1.1. プロ野球選手の誕生日別にみる人数

誕生日	人数
4月	86人
5月	76人
6月	96人
7月	99人
8月	57人
9月	69人
10月	68人
11月	67人
12月	63人
1月	55人
2月	32人
3月	37人

日本野球機構公式 HP(2010)より筆者作成

左の図から、全体的に4月から3月にかけて人数が少なくなっていることがわかる。ここで、4～6月生まれと早生まれの人数を比較してみると、

4～6月生まれ…258人

1～3月生まれ…124人

となり、4～6月生まれは早生まれに対し約2.08倍の人数がいることが分かった。

図1.2.
プロサッカー選手の誕生月別にみる人数

誕生月	人数
4月	59人
5月	72人
6月	46人
7月	54人
8月	49人
9月	63人
10月	34人
11月	27人
12月	40人
1月	36人
2月	23人
3月	35人

Jリーグ公式HP(2010)より筆者作成

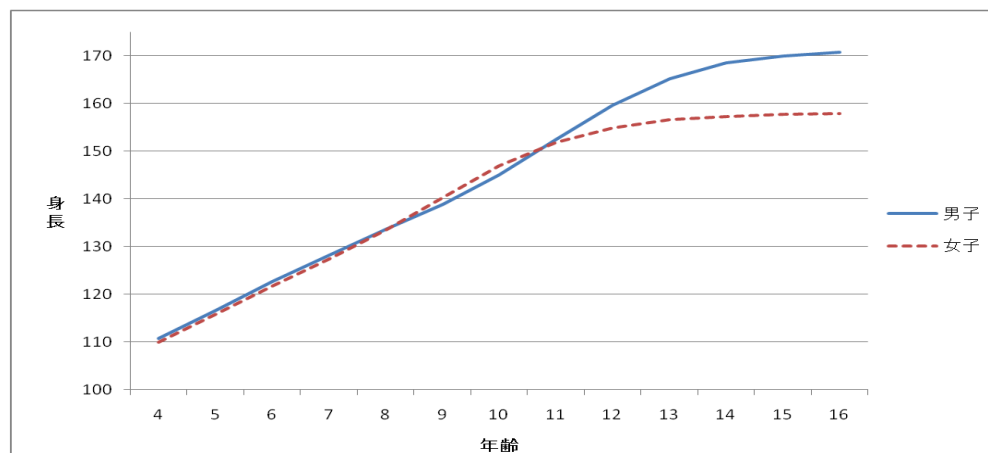
左の図から、サッカーでは野球に比べて人数にばらつきがあるように思えるが、やはり全体的に後の方の月にいくほど人数が少なくなる傾向があるように思える。さらに、
4～6月生まれ…177人
1～3月生まれ…94人
と、4～6月生まれは早生まれに対し約1.88倍の人数がいることが分かった。

1.2. 子供の発達過程

上でみたように早生まれと4～6月生まれではプロスポーツ選手の人数において決定的な差がみられた。この差はどこから生じるのであろうか。平成19年に行われた厚生労働省の人口動態調査によると3ヶ月毎の出生数の割合は、4～6月生まれが24.5%、7～9月生まれが25.7%、10～12月生まれが25.8%、1～3月生まれが24.0%、と25%前後でほぼ均等に分散していることがわかる。よって上の結果が単に月別の人口の差によるものではないことが分かった。

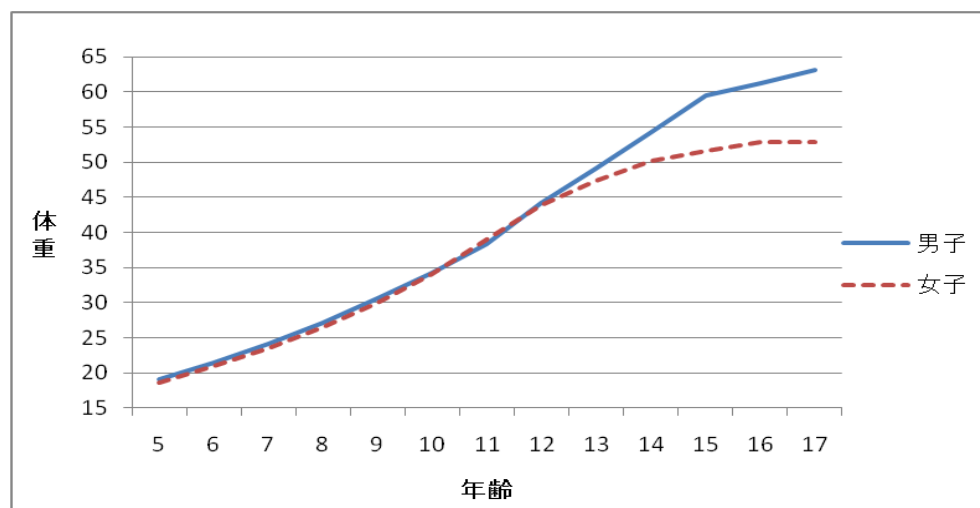
そこで次に子供がどのように成長するのか運動能力の基本となる身長・体重の二つの面で調べてみた。

図 1.3. 年齢別にみる身長の平均値



平成21年度 文部科学省「学校保健統計調査」より 筆者作成

図 1.4. 年齢別にみる体重の平均値



平成 21 年度 文部科学省「学校保健統計調査」より 筆者作成

4～6月生まれの子供と早生まれの子供では、半年から一年もの年齢差が生じていることになる。ここで上の二つの図に注目してみると特に小学校～中学校にかけて大幅に成長していることが読み取れる。この期間においての半年から一年もの年齢差は大きな運動能力の差につながると考えられる。

この運動能力の差が(特に競技人口が多く、レギュラー争いが活発な)スポーツをする早生まれの子供たちに、自分は他の子供に比べて下手であると学習させ、そのスポーツを中学・高校などへ進学する際に続けにくくさせているために、プロスポーツ選手になりにくいと思われる。

2. 学力の面での影響

2.1. 誕生月と学力スコア

学力の面では4～6月生まれの子供と早生まれの子供で差は生じるのであろうか。川口・森(2007)は「誕生日と学業成績・最終学歴」(労働政策研究・研修機構 p.29-30)において、「同じ学年に所属する生徒は、ハンディキャップをつけることなく競争をさせられる。6歳の児童にとって実質1歳の年齢差は重大であり、競争的な環境におかれた場合、いわゆる早生まれの子供たちが遅生まれの子供たちに比べて不利になるという状況も考えられる。」と述べている。

川口・森(2007)の行った子供の学力に対する調査結果を以下に示す。

図 2.1. 子供の学力スコア

小学生			中学生			高校生		
	4月	3月		4月	3月		4月	3月
算数	578.91	557.06	数学	593.64	574.97	数学	543.04	520.36
理科	558.18	535.94	理科	559.07	541	理科	552.37	539.98
						読解	508.15	482.19

川口・森(2007)「誕生日と学業成績・最終学歴」p.33-34 より 筆者作成

この調査では、小・中学生に関しては国際教育到達度評価学会 (IEA) が、高校生に関しては経済協力開発機構 (OECD) が実施した平均が 500 点、標準偏差が 100 点となるように標準化されたテストの結果をもとにしている。また、原級留め置きや、就学猶予等の理由により、満年齢が通常の生徒より高くなっている者のデータはあらかじめ除外されている。3月生まれと4月生まれしか比べていないが、早生まれと4～6月生まれを比べるのには十分な資料といえる。

図から、4月生まれと3月生まれのスコアを比べると、

- ・小学生…算数 21.85、理科 21.12
- ・中学生…数学 18.67、理科 18.07
- ・高校生…数学 22.68、理科 12.39、読解 25.96

と、3月生まれは一貫して4月生まれより10～20点ほど低いスコアを記録していることが分かる。

2.2. 誕生月と学力の関係性

川口・森(2007)は上記の研究において、以下のように述べている。誕生月の違いは同学年内での児童・生徒の相対的な発達度の違いをもたらすが、この効果は年齢を重ねるにたがって消えていくものと考えられる。しかし、幼少期の初期的体験がその後の学習意欲などに影響を与えることを通じて、成績差は中学生・高校生になっても残ることが考えられ、ひいては最終学歴の違いにまでつながる可能性もある。

また慶應義塾幼稚舎(私立小学校)では入試を生年月日ごとにグループに分けて行い、早生まれの子供に対して不利な状況が生まれないように配慮している。

以上のことから、誕生月の差は学力に関しても大幅な影響を与え、早生まれの子供の知的能力が劣っているわけではないのに、誕生月による差が最終学歴にまで影響を及ぼしてしまう可能性があることがわかった。

おわりに

同学年内における誕生月の差は、大幅な運動能力・知的能力の差として現れることが分かった。その能力差は年齢を重ねるとともに消えてしまうように思えるが、実際には幼少・児

童期に自分は相対的に能力が劣っていると経験してしまうことが、運動能力の面でいえばプロスポーツ選手の人数、知的能力でいえば最終学歴の差につながってしまうことが分かった。

また、早生まれの子供が誕生月の差による能力差から、スポーツで活躍することや進学校への就学など様々な面で不利になりやすい現在の状況は、決して見過ごして良いものではない。現在の学年を一年単位で区切る学校制度がこのまま継続されるのであれば、先にみた慶應義塾幼稚舎のような生年月日ごとにグループ分けした入試など、早生まれの子供に対して不利益にならないように最大限の配慮をすることが必要であろう。

そして教育者もこの事実を十分考慮した上で、本当に児童・生徒を平等に扱えるように配慮することが求められるであろう。

引用・参考文献一覧

松浦義行『体力の発達』1982、朝倉書店。

沢田慶輔・木川達爾・神保信一編『実践教育心理選集 〈第1巻〉 児童生徒の理解と指導』
1967、第一法規出版。

同『〈第3巻〉 小学生の心理と教育』同上。

同『〈第4巻〉 中・高校生の心理と教育』同上。

日本野球機構オフィシャルサイト 選手一覧 (<http://www.npb.or.jp/>) 2010年7月7日閲覧。

Jリーグ公式サイト 登録選手一覧 (<http://www.j-league.or.jp/club>) 2010年7月7日閲覧。

厚生労働省 (2007) 人口動態調査 (<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estst/NewList.do?tid=000001028897>)

文部科学省 (2010) 学校保健統計調査 (<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/ghoken/2009/gh09index.htm>) 2010年7月8日閲覧。

川口大司・森啓明 『誕生日と学業成績・最終学歴』 「日本労働研究雑誌 2007年12月号」
(労働政策研究・研修機構) p.29-42

慶應義塾幼稚舎 入試情報 Q&A (<http://www.yochisha.keio.ac.jp/exam/qa.html>) 2010年7月9日閲覧。